



次号の巻頭文は、野崎運営委員の予定です!

お楽しみに!

お品書き

【その壱】CODEレターVOL.10

【その弐】プロジェクトNEWS

【その参】アフガニスタン支援イベント案内

【その四】国際的な人道援助のあり方講演会案内

以上

Letter

2003.11.11 VOL.10

CODE海外災害援助市民センター発行

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693

e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>

郵便振替 : 00930-0-330579

CODEとわたしの関わり

運営委員 西 興

(ユーハイムコンフェクト会長)

正

阪神淡路大震災は、全く予期せぬ未曾有の体験であった。ちょうどその時、私は、兵庫県洋菓子協会の会長に就任して半年を過ぎたところであった。

この時は、洋菓子業界も数多くの被害を受けた。しかし、全国展開をしている大手は、他の地域で同情購入による売り上げでカバーし、また、全壊した小さな店も何とか自前で復旧してお店を再開したり、他の被害の少なかった地区に移転して新しいお店を作ったりして、多くは、比較的早い段階で元気を取り戻していました。

そのためか、みんなを励ます催しやボランティア活動、各所の再開イベント、さらには座談会など、いろいろなところからお呼びがかかったものです。

そして、ある運命的な出会いが、毎日新聞の当時の佐野神戸支局長によってなされた。ここに計画された座談会で、その後、国際的に各国の災害地支援のために全身の精力をこめて活躍され、惜しくも亡くなられた草地氏やCODEの芹田代表、島田運営委員と席を同じくしたことである。

この時の出会いが縁となって、これらの方々に関与するいろいろなボランティア活動に関与することとなった。

それがまた、このCODEの運営委員のお役目を頂戴することにもなった次第でもある。

そして最初の間は、CODEそのものの説明と賛助会員への参加、ご協力をお願いすることから私の行動は始まった。

その中で、割合多くの方にご協力いただいた方法は、旅行などで2、3日一緒に行動をともした方々である。私は、割

合早めに皆さまと溶け込める性格であり、また、西流独特の踊りを披露して仲良くなれる方である。その折り、撮ったスナップ写真をお送りしてCODEのご協力をご依頼している。

一方で宴席での勧誘はなかなか難しいものがある。パンフレット等を配っても自己満足でしかなく、実効に結びつかない事が多い。

大震災後の被災地に多くの方々をお迎えしようと、地場産業である日本酒と洋菓子によるウェルカム運動として「二刀流のんべ会」がある。現在26回目まで行っているが、この席でもCODEのこと各支援プロジェクトのことなど話をしているが、実効は少ない気がする。

このような酒席では、NGO/NPOの活動支援のための夜会「ぼたんの会」のパーティー券を買ってもらう方が効果があった。

いづれにしてもあの日から神戸では、ボランティア活動が盛んとなり、世界各地の災害のニュースにも他人事でない関心を持つようになった。

それにしても国内はもとより海外でもなんと災害の頻発していることだろうか。

それにともなって、CODEの支援プロジェクトもいくつも抱えるようになった。

企業への呼びかけも、経済不況の長引く中、一部を除いて特に神戸が悪く、なかなか思うように行かないのが現状である。それでも何とかご協力いただけるよう地道なお願いを続けようと考えている。

ここに、大宇宙のサムシング・グレートに祈りたい。

願わくば、この世に天変地異の少なからんことを、また、目には目をのほこをおさめ、この世の紛争が終結し共生の世界が生まれることを祈るや切である。

ミニミニレポート

HAT神戸内国際機関訪問ツアー報告



UNHCR内での様子

今年度も昨年度に引き続きHAT神戸内国際機関訪問ツアーを関係機関のご協力のもと行わせて頂きました。訪問しました機関は国連地域開発センター(UNHCR)防災計画兵庫事務所、独立行政法人国際協力機構(JICA)、アジア防災センター(ADRC)、国連人道問題調整事務所(OCHA)リーフウェブ神戸オフィスです。

大学生を中心とした多くの方々にご参加頂きました。参加者アンケートの一部をご紹介します。

現場の方から実際に話を聞くことで、自分のやりたい方向性を確認できました。

国連や国際機関というと「上から物を見ている」「顔がない」というようなイメージを持っていたけれど実際に職場でお話を聞いてみると、とてもアットホームな雰囲気でお話がありました。

実際にHAT神戸という場所内で各機関が連携しているということがわかりました。

一般市民として自分の経験が活かせる場があれば活かしたいと思います。

国際協力的一端を知ることができました。

など、参加者の多くの方から参加して良かったという意見を頂きました。また実際に訪ねてみることで、これまで考えていたイメージとは全く違うものだと感じた人が多かったです。今後も皆様からの意見を活かしつつ、国際協力を知るひとつの場として開催していきたいと思っています。

CODE翻訳ボランティア研修会報告

11月9日(日)、CODEが現在行っています海外災害情報ページ「ワールドボイス」の翻訳ボランティア研修会が行われました。ワールドボイスの情報源である国連人道問題調整事務所(UNOCHA)リーフウェブ神戸オフィスのスタッフの方にもご参加頂き、貴重なアドバイスを頂きました。研修会では、リーフウェブについての説明、そして翻訳するときの形式の統一などが相談されました。またこれまで翻訳してきた上で困った専門用語などの解説も行われ、今後、冊子化やホームページ上での用語集などを作ることが検討されました。

翻訳ボランティアの皆さんが顔を合わせることは初めてでしたので、それぞれがどのような方たちと翻訳をしているのかを知る交流会となりました。

現在兵庫県「行政・NPO協働事業助成」を頂いてホームページを更に見やすく改良中です。12月後半には新しいホーム

ページの完成予定です。ぜひ現在のホームページをご覧頂き、皆様からアドバイスをいただければと思います。

ワールドボイスHP <<http://www.code-jp.org/wv>>

(以上文責：事務局 斉藤容子)

事務局より読者の皆さまへ

昨年10月に創刊いたしましたCODEレターも今号で発行より10号を迎えました。会員の皆さまはじめ、各救援プロジェクトへご寄付を頂いた方、関係機関の皆さま、セミナーにご参加いただいた皆さまへご送付させていただいております。

今号では、本編の他にプロジェクトニュースやセミナーの案内などを同封させていただいております。また毎回、郵便振込用紙も同封させていただいております。今現在行っている救援プロジェクト(アフガニスタン救援プロジェクト、アルジェリア地震救援プロジェクト)へのご支援や賛助会員としてご入会頂きたいと思同封させていただいております。

毎回、約500通を発送しており、発送作業の簡素化を進める関係上、一度賛助会員にご入会された方にも、毎回、郵便振込用紙が届いていると思っておりますが、ご理解の程をよろしくお願い申し上げます。尚、会員としてご入会いただいた方の期限は、入会月にかかわらず3月末日までとなります。

以上、今後ともよろしく申し上げます。

(文責：事務局 仲江川徹)

これまでの活動記録10/1～10/31

- 10/ 3 市民とNGOの「防災」国際フォーラム準備会開催
部落解放研究第37回全国集会参加～5日
- 10/ 8 NGOことはじめセミナー第1回開催
- 10/14 近畿宗教婦人連盟兵庫大会参加
- 10/15 HAT神戸国際機関訪問ツアー開催～16日
- 10/17 第16回運営委員会開催
- 10/18 HuMAセミナー参加
- 10/19 JICA緊急援助隊中級研修参加
- 10/24 NGOことはじめセミナー第2回開催
全日本仏教婦人連盟総会に参加
- 10/27 INSARAG国際シンポジウム事前打ち合わせ
- 10/30 真言宗全国青年大会に参加

ありがとうございます。10/1～10/31

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付

木下カヨ子(兵庫県)、成毛典子、三島宣彦(以上東京都)

新規会員

・賛助会員

個人:押川忠広(京都府)、阿南昌寛(大阪府)

編集・発行 CODE海外災害援助市民センター
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL: 078-578-7744 FAX: 078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替: 00930-0-330579